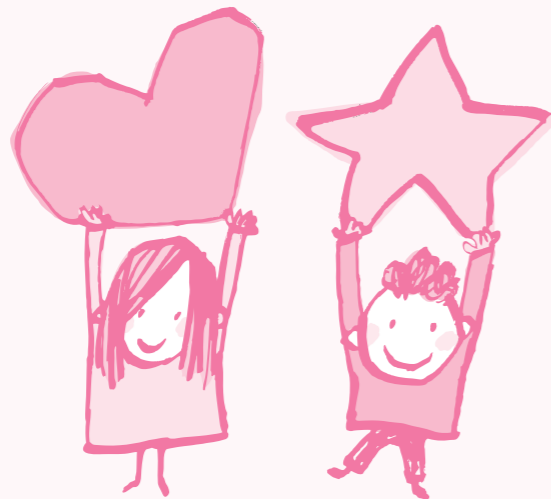


公益財団法人 がんの子どもを守る会
2015年度事業報告書

2015年4月1日～2016年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT
Apr.01,2015～ Mar.31,2016



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311 (代表)

03-5825-6312 (相談)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検索









CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2015年度収支報告	6
 2015年度の事業概況	
①療養援助事業	11
②相談事業	12
③治療研究事業	17
④総合支援施設運営事業	18
⑤小児がん・難病対策	19
⑥支部活動	20
⑦広報・啓発・募金活動 等	22
⑧国際活動	27
⑨奨学金事業	27
⑩ボランティアコーディネート・研修会	28
⑪調査研究協力	28
⑫2015年度年次大会開催	29
⑬企業・団体からのご協力	29
 寄付・募金者一覧	30

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ

公益財団法人がんの子どもを守る会
理事長 山下 公輔



2015年度事業報告書の発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

公益財団法人がんの子どもを守る会は、“小児がんを治る病気にしたい”、“小児がんのために、自分たちと同じ苦しみを繰り返す家族のいない世の中をつくりたい”という、小児がんで子を亡くした親たちの願いの下で設立された、小児がんの親の会であります。1968年（昭和43年）の設立以来、小児がん患児・家族に対する様々な支援を核に、幅広く事業を展開し現在に至っており、2年後には創立50年の節目を迎えます。

2012年の公益財団移行を節目に、会の事業の持続的発展をより一層確かなものにすべく、運営方針・体制の改編・強化の努力を続けて参りましたが、昨年度はその努力の継続とともに、篤志の方々からのご寄付という支えもあり、事業収支の正常化を実現することができました。

数年前の厳しい運営赤字状況から脱却し、事業推進の支えである経済的安定性の確保が実現されつつあることは、大変喜ばしいことではありますが、同時に本年度以降は創立50年を記念する事業等を含め新たに計画されている事業もあり、今後共心を引き締めて、会の使命の実現に努めて行く必要があります。

2016年度は、これまで長年に亘って続けてまいりました、「小児がん家族に対する相談事業」、「小児がん家族への療養費援助事業」、「小児がんに関する治療研究助成事業」、「小児がんに関する社会の理解の向上を目指した啓発活動」そして「難病の子どもを持つ家族のための総合支援施設運営事業」を中心に、近年の環境変化を意識しながら、同時に創立50年の節目

に向けた新たな事業を含め積極的に活動を推進して参ります。

また本年度は、2017年に予定されている、国のがん対策推進基本計画の第三期改訂に向けた準備が進められる年であり、2012年からスタートし一通り形が整ってきた小児がん医療体制の更なる改善・強化に向け、患児・家族としての寄与が求められております。また、成人に達した小児がんの患児・経験者の医療費負担軽減に関連して、小児慢性特定疾病医療費助成制度による支援と、難病法の下での指定難病の枠組みの中で下での支援のギャップ、いわゆるトランジション問題も未解決であり、私たちは患児・家族の立場から問題解決に向けた努力を継続していかねばなりません。

これらに加え、小児がんが“治る病気”になってきたという喜ばしい事実に伴って増えていく、「小児がん経験者」の支援、長期フォローアップに関する諸課題、更には教育、就労等々、小児がん患児・家族にとって大変重要な課題にもかかわらず、必要な体制の整備や具体策の実現のためには、まだまだ多くの努力が必要であるという現実もごさいます。

小児がん患児・家族の会である当会は、小児がんの医療や臨床研究の中核である日本小児血液・がん学会（JSPHO）や日本小児がん研究グループ（JCCG）等医療界の方々との連携を密に取りながら、患児・家族の立場からこれらの問題解決に向けた努力を継続して参ります。

これらを含んだ、今年度の事業計画の詳細は別途公表資料として開示しておりますが、小児がん患児・家族に対する幅広い支援事業を持続的に推進するという当会の使命の実現に向け、不肖私を含め理事及び事務局職員一同誠心誠意努力をする所存であります。皆様におかれましては、この機会にぜひ本事業報告書及び事業計画をご一読いただき、当会の活動について一層のご理解とご支援を賜りますよう誠心からお願い申し上げます。

当会の事業

- | | |
|--------------------------|--|
| （事業）1 小児がんに関する知識の普及・啓発事業 | 5 小児がん・小児難病に関する宿泊施設運営事業 |
| 2 小児がんに関する調査・研究事業 | 6 小児がん経験者及びがん遺児（主たる生計維持者をがんにより失った遺児）への奨学金の給付事業 |
| 3 小児がんに関する相談事業 | 7 その他この法人の目的を達成するために必要な事業 |
| 4 小児がんに関する支援事業 | |



組織概要

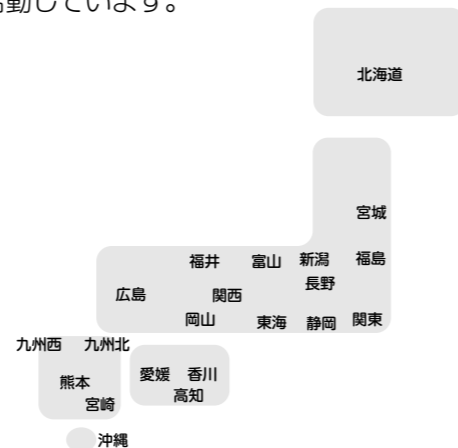
※2016年3月31日現在

名称	公益財団法人 がんの子どもを守る会
設立	1968年10月31日
設立趣旨	当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
主務官庁	内閣府
主たる事務所	浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12 TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
従たる事務所	亀戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4 TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553 大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1 TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229
組織	理事 11名(理事長1名、副理事長2名) 監事 2名 評議員 12名 職員 19名 普通会員 2,129名 賛助会員 283名(法人23社、個人260名)

支部 当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地域の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、熊本、宮崎、沖縄



役員名簿

理事長	山下 公輔 親/PwCアドバイザー合同会社 シニアアドバイザー
副理事長	細谷 亮太 聖路加国際病院 顧問/当会嘱託医
	近藤 博子 親/元 当会ソーシャルワーカー
理事	橋都 浩平 株式会社ドリームインキュベータ 常勤監査役 元 東京大学医学部附属病院 小児外科 教授
	松井 秀文 認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長 元 アフラック 会長
	張 光陽 親/当会九州北支部 幹事
	増子 孝徳 親/のぞみ法律事務所 弁護士
	坪田 起久恵 親/当会福井支部 代表幹事
	森下 さふみ 親/当会関西支部 幹事、NPO法人日本クリニクラウン協会 理事
	片岡 巖雄 親/株式会社アド・ダイセン 取締役
	石川 幹雄 当会事務局長
監事	高橋 和子 親/当会九州北支部 代表幹事
	三川 勝夫 親/三川会計事務所 代表
評議員	河 敬世 大阪府立母子保健総合医療センター 顧問
	深澤 重幸 親/コトブキシーティング株式会社 代表取締役社長
	西田 知佳子 元 聖路加国際病院 医療社会事業課 ソーシャルワーカー
	平野 朋美 埼玉県立小児医療センター 地域連携・相談支援センター ソーシャルワーカー
	平澤 一郎 小児がん経験者/長岡子ども・医療・介護専門学校
	幸島 静枝 親/当会会員
	稲田 浩子 佐賀県医療センター 好生館 小児科部長
	中村 美智子 小児がん経験者
	鈴木 中人 親/当会東海支部 代表幹事
	隈部 俊宏 北里大学病院 脳神経外科 主任教授
	田中 徹 親/当会会員
	本橋 由紀 株式会社毎日新聞社 新聞研究本部 記者研修センター 担当部長
療養援助委員会	星 順隆 元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部

別所 文雄	杏林大学 医学部 小児科
黒田 達夫	慶應義塾大学 医学部 小児外科 教授
花田 良二	埼玉県立小児医療センター 副院長
前田 美穂	日本医科大学付属病院 小児科 教授
柳澤 隆昭	東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科 教授
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
調査研究委員会	
橋都 浩平	株式会社ドリームインキュベータ 常勤監査役 元 東京大学医学部附属病院 小児外科 教授
細谷 亮太	聖路加国際病院 顧問/当会嘱託医
星 順隆	元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部
岩田 敬治	当会最高相談役
山下 公輔	当会理事長
治療研究委員会	
山下 公輔	当会理事長
黒田 達夫	慶應義塾大学 医学部 小児外科 教授
小原 明	東邦大学医療センター大森病院 院長
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
陳 基明	日本大学医学部附属板橋病院 小児科外来 医長
菱木 知郎	千葉県こども病院 小児外科 主任医長
丸 光恵	甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授
〈専門委員〉	
野崎 美和子	獨協医科大学 越谷病院 放射線科 教授
逸見 仁道	東邦大学 医学部 教育開発室 特任教授
中澤 温子	東海大学 医学部 基盤診療学系病理診断学 准教授
海外留学助成委員会	
河 敬世	大阪府立母子保健総合医療センター 顧問
岡村 純	国立病院機構九州がんセンター 臨床研究センター 顧問
小田 慈	岡山大学 名誉教授 特任教授
駒田 美弘	三重大学 学長
中畑 龍俊	京都大学 iPS細胞研究所 副所長
石川 幹雄	当会事務局長
名誉顧問	
日野原 重明	聖路加国際病院 名誉顧問
柳田 邦男	作家



会の歴史

1962	設立趣意書作成	1998	創立30周年記念第30回SIOPI国際小児がん学会親の会会議
1966	NHKカメラリポートで紹介	1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会	2000	「小児がん患者とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金	2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
1969	小児がん全国登録開始	2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情	2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現	2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足	2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置	2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足	2008	創立40周年記念事業「がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行	2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成 高知支部設立総会
1976	特定公益増進法人の認定	2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
1978	本会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会	2011	東日本大震災緊急療養援助実施
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童がん国際シンポジウム	2012	公益財団法人移行認定 鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
1981	新潟支部設立総会	2013	「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定 岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
1984	日本小児がん研究会発足	2014	奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始 厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出 文部科学省に「小児がん患者が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出 「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行 「小児がんの子どものきょうだいの気持ち」刊行 鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）	2015	第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いま そして これから～」開催 アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催 「小児がん 子育てでんわ相談室」開設
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章		
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム		
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会		
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成		
1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行		
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会		
1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）		
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入		



2015年度収支報告 (2015年4月1日～2016年3月31日)



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	公益目的事業	法人会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
財産運用益	5,908,900			5,908,900
普通預金利息	81,203			81,203
定期預金利息	357,407			357,407
投資有価証券利息	5,470,290			5,470,290
受取寄付金	265,479,970	50,619,873		316,099,843
特定寄付金	6,345,300			6,345,300
一般寄付金	50,619,874	50,619,873		101,239,747
受取寄付金振替額	208,514,796			208,514,796
受取補助金等	9,875,987			9,875,987
受取助成金	5,159,253			5,159,253
受取補助金等振替額	1,716,734			1,716,734
受取利用料	7,515,100			7,515,100
施設利用料	6,777,800			6,777,800
リネン利用料	737,300			737,300
雑収益	3,088,866			3,088,866
雑収益	3,088,866			3,088,866
指定正味財産からの振替額	2,744,639			2,744,639
基本財産受取利息	2,744,639			2,744,639
経常収益計	294,613,462	50,619,873		345,233,335
(2) 経常費用				
事業費	314,860,503			314,860,503
人件費	78,170,923			78,170,923
法定福利費	9,793,609			9,793,609
給与	65,335,384			65,335,384
福利厚生費	82,250			82,250
退職給付費用	2,959,680			2,959,680
助成費	26,592,000			26,592,000
療養助成費	14,592,000			14,592,000
治療研究助成費	7,000,000			7,000,000
調査研究助成費	5,000,000			5,000,000
活動費	130,759,541			130,759,541
会議費	1,941,506			1,941,506
旅費交通費	12,299,208			12,299,208
通信運搬費	6,658,842			6,658,842
消耗品費	2,106,855			2,106,855
修繕費	3,224,260			3,224,260
印刷製本費	3,311,625			3,311,625
光熱水料費	13,116,332			13,116,332
保険料	1,107,971			1,107,971
諸謝金	1,373,244			1,373,244
業務委託費	37,993,091			37,993,091
広報費	3,507,991			3,507,991
支援費	1,465,000			1,465,000
図書資料費	270,274			270,274
保健衛生費	945,642			945,642
ゴールドリボン制作費	2,801,088			2,801,088
宿泊施設運営費	877,513			877,513
租税公課	9,514,120			9,514,120
リネン賃借料	548,643			548,643
事業協力費	1,679,400			1,679,400
会場費	2,581,345			2,581,345
雑費	3,079,794			3,079,794
保守料	12,522,344			12,522,344
リース料	2,147,013			2,147,013
植栽管理費	948,240			948,240
借地料	845,832			845,832
衛生管理費	3,490,150			3,490,150
消耗什器備品費	402,218			402,218
減価償却費	30,788,039			30,788,039
建物減価償却額	26,699,921			26,699,921
建物附属設備減価償却額	2,256,609			2,256,609
ソフトウェア減価償却額	324,450			324,450
什器備品減価償却額	1,507,059			1,507,059

科目	公益目的事業	法人会計	内部取引消去	合計
奨学金給付費	48,550,000			48,550,000
奨学金給付費	48,550,000			48,550,000
管理費		32,586,469		32,586,469
人件費		23,076,462		23,076,462
給与		18,294,312		18,294,312
法定福利費		2,789,062		2,789,062
福利厚生費		19,968		19,968
退職給付費用		1,973,120		1,973,120
活動費		8,823,132		8,823,132
会議費		39,406		39,406
旅費交通費		909,218		909,218
通信運搬費		591,949		591,949
消耗品費		290,802		290,802
印刷製本費		1,243,735		1,243,735
図書資料費		48,444		48,444
保守料		539,232		539,232
リース料		2,276,563		2,276,563
支払報酬		2,052,000		2,052,000
租税公課		76,400		76,400
消耗什器備品費		34,210		34,210
雑費		721,173		721,173
減価償却費		686,875		686,875
ソフトウェア減価償却額		564,900		564,900
什器備品減価償却額		121,975		121,975
経常費用計	314,860,503	32,586,469	0	347,446,972
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 20,247,041	18,033,404	0	△ 2,213,637
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 20,247,041	18,033,404	0	△ 2,213,637
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 20,247,041	18,033,404	0	△ 2,213,637
一般正味財産期首残高	648,666,149	△ 32,238,020	0	616,428,129
一般正味財産期末残高	628,419,108	△ 14,204,616	0	614,214,492
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	3,000,000			3,000,000
受取助成金	3,000,000			3,000,000
小児がん骨髄移植基金	3,000,000			3,000,000
受取寄付金	197,033,361			197,033,361
指定寄付金	197,033,361			197,033,361
三重ファミリールーム指定寄付金	1,200,000			1,200,000
施設運営指定寄付金	122,545,883			122,545,883
国際交流指定寄付金	1,500,000			1,500,000
がん遺児奨学金指定寄付金	69,287,478			69,287,478
ゴールドリボン指定寄付金	2,500,000			2,500,000
特定資産評価損	8,463,314			8,463,314
一般正味財産への振替額	△ 215,976,169			△ 215,976,169
指定寄付金	△ 208,514,796			△ 208,514,796
基本財産受取利息	△ 2,744,639			△ 2,744,639
受取助成金等	△ 4,716,734			△ 4,716,734
当期指定正味財産増減額	△ 24,406,122	0	0	△ 24,406,122
指定正味財産期首残高	2,162,457,768	0	0	2,162,457,768
指定正味財産期末残高	2,138,051,646	0	0	2,138,051,646
III 正味財産期末残高	2,766,470,754	△ 14,204,616	0	2,752,266,138



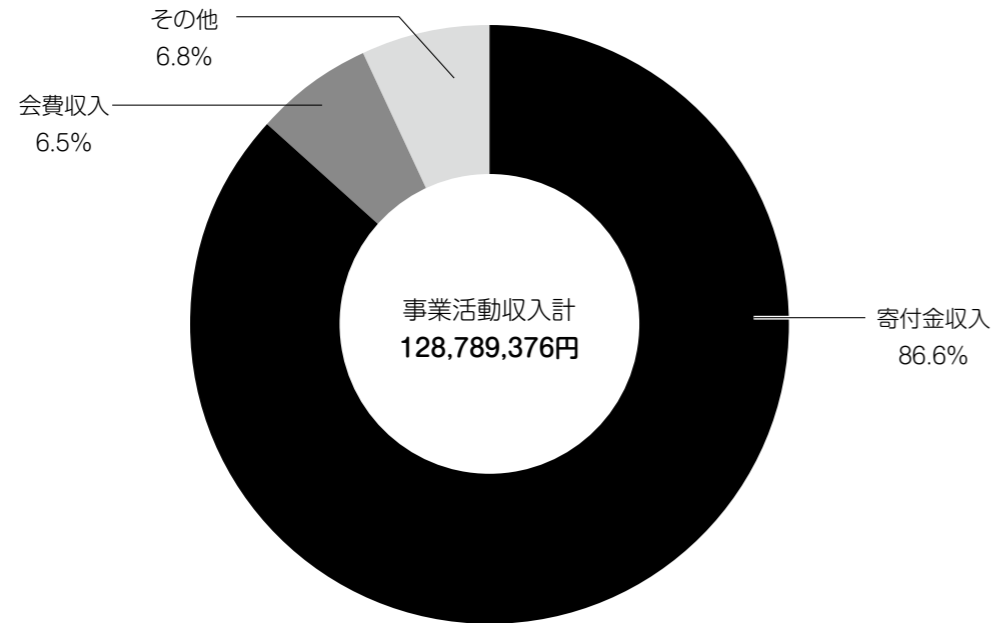
正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

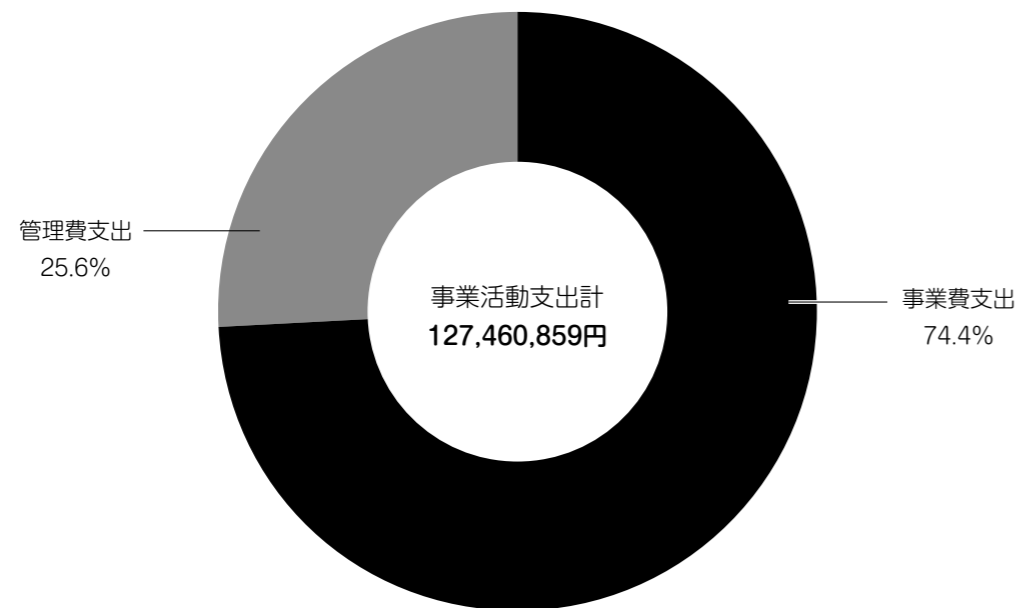
科 目	一般会計	AFLACヘアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	メイスイ財団 小児がん骨髄移植基金 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合 計
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
財産運用益	5,850,515	18,776	2,753	1,562	35,294	5,908,900
普通預金利息	22,818	18,776	2,753	1,562	35,294	81,203
定期預金利息	357,407	0	0	0	0	357,407
投資有価証券利息	5,470,290	0	0	0	0	5,470,290
受取寄付金	111,585,047	149,252,350	1,200,000	0	54,062,446	316,099,843
特定寄付金	6,345,300	0	0	0	0	6,345,300
一般寄付金	101,239,747	0	0	0	0	101,239,747
受取寄付金振替額	4,000,000	149,252,350	1,200,000	0	54,062,446	208,514,796
受取補助金等	5,159,253	0	1,716,734	3,000,000	0	9,875,987
受取助成金	5,159,253	0	0	0	0	5,159,253
受取補助金等振替額	0	0	1,716,734	3,000,000	0	4,716,734
受取利用料	362,000	6,882,800	270,300	0	0	7,515,100
施設利用料	362,000	6,145,500	270,300	0	0	6,777,800
リネン利用料	0	737,300	0	0	0	737,300
雑収益	3,087,922	944	0	0	0	3,088,866
雑収益	3,087,922	944	0	0	0	3,088,866
指定正味財産からの振替額	2,744,639	0	0	0	0	2,744,639
基本財産受取利息	2,744,639	0	0	0	0	2,744,639
経常収益計	128,789,376	156,154,870	3,189,787	3,001,562	54,097,740	345,233,335
(2) 経常費用						
事業費	94,874,390	157,423,725	4,564,648	3,900,000	54,097,740	314,860,503
人件費	35,730,315	38,378,608	0	0	4,062,000	78,170,923
法定福利費	4,257,952	5,006,657	0	0	529,000	9,793,609
給与	28,509,183	33,293,201	0	0	3,533,000	65,335,384
福利厚生費	3,500	78,750	0	0	0	82,250
退職給付費用	2,959,680	0	0	0	0	2,959,680
助成費	22,692,000	0	0	3,900,000	0	26,592,000
療養助成費	10,692,000	0	0	3,900,000	0	14,592,000
治療研究助成費	7,000,000	0	0	0	0	7,000,000
調査研究助成費	5,000,000	0	0	0	0	5,000,000
活動費	36,225,828	90,357,882	2,690,091	0	1,485,740	130,759,541
会議費	1,889,195	14,931	0	0	37,380	1,941,506
旅費交通費	11,574,302	665,306	0	0	59,600	12,299,208
通信運搬費	3,876,320	2,411,758	48,894	0	321,870	6,658,842
消耗品費	904,755	1,180,914	15,251	0	5,935	2,106,855
修繕費	0	3,193,120	31,140	0	0	3,224,260
印刷製本費	2,189,635	504,395	0	0	617,595	3,311,625
光熱水料費	0	12,658,348	457,984	0	0	13,116,332
保険料	58,021	1,043,200	6,750	0	0	1,107,971
諸謝金	1,373,244	0	0	0	0	1,373,244
業務委託費	0	37,870,103	122,988	0	0	37,993,091
広報費	3,507,991	0	0	0	0	3,507,991
支援費	965,000	0	500,000	0	0	1,465,000
図書資料費	27,720	231,754	0	0	10,800	270,274
保健衛生費	0	745,642	200,000	0	0	945,642
ゴールドリボン制作費	2,801,088	0	0	0	0	2,801,088
宿泊施設運営費	877,513	0	0	0	0	877,513
租税公課	85,020	9,427,900	1,200	0	0	9,514,120
リネン賃借料	0	548,643	0	0	0	548,643
事業協力費	1,679,400	0	0	0	0	1,679,400
会場費	2,581,345	0	0	0	0	2,581,345
雑費	1,835,279	750,443	61,512	0	432,560	3,079,794
保守料	0	12,458,604	63,740	0	0	12,522,344
リース料	0	2,147,013	0	0	0	2,147,013
植栽管理費	0	948,240	0	0	0	948,240
借地料	0	0	845,832	0	0	845,832
衛生管理費	0	3,425,350	64,800	0	0	3,490,150
消耗什器備品費	0	132,218	270,000	0	0	402,218
減価償却費	226,247	28,687,235	1,874,557	0	0	30,788,039
建物減価償却額	100,247	24,882,940	1,716,734	0	0	26,699,921
建物附属設備減価償却額	0	2,256,609	0	0	0	2,256,609

科 目	一般会計	AFLACヘアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	メイスイ財団 小児がん骨髄移植基金 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合 計
ソフトウェア減価償却額	126,000	198,450	0	0	0	324,450
什器備品減価償却額	0	1,349,236	157,823	0	0	1,507,059
奨学金給付費	0	0	0	0	48,550,000	48,550,000
奨学金給付費	0	0	0	0	48,550,000	48,550,000
管理費	32,586,469	0	0	0	0	32,586,469
人件費	23,076,462	0	0	0	0	23,076,462
給与	18,294,312	0	0	0	0	18,294,312
法定福利費	2,789,062	0	0	0	0	2,789,062
福利厚生費	19,968	0	0	0	0	19,968
退職給付費用	1,973,120	0	0	0	0	1,973,120
活動費	8,823,132	0	0	0	0	8,823,132
会議費	39,406	0	0	0	0	39,406
旅費交通費	909,218	0	0	0	0	909,218
通信運搬費	591,949	0	0	0	0	591,949
消耗品費	290,802	0	0	0	0	290,802
印刷製本費	1,243,735	0	0	0	0	1,243,735
図書資料費	48,444	0	0	0	0	48,444
保守料	539,232	0	0	0	0	539,232
リース料	2,276,563	0	0	0	0	2,276,563
支払報酬	2,052,000	0	0	0	0	2,052,000
租税公課	76,400	0	0	0	0	76,400
消耗什器備品費	34,210	0	0	0	0	34,210
雑費	721,173	0	0	0	0	721,173
減価償却費	686,875	0	0	0	0	686,875
ソフトウェア減価償却額	564,900	0	0	0	0	564,900
什器備品減価償却額	121,975	0	0	0	0	121,975
経常費用計	127,460,859	157,423,725	4,564,648	3,900,000	54,097,740	347,446,972
評価損益等調整前当期経常増減額	1,328,517	△ 1,268,855	△ 1,374,861	△ 898,438	0	△ 2,213,637
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	1,328,517	△ 1,268,855	△ 1,374,861	△ 898,438	0	△ 2,213,637
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,328,517	△ 1,268,855	△ 1,374,861	△ 898,438	0	△ 2,213,637
一般正味財産期首残高	442,289,277	154,577,031	14,688,786	4,873,035	0	616,428,129
一般正味財産期末残高	443,617,794	153,308,176	13,313,925	3,974,597	0	614,214,492
II 指定正味財産増減の部						
受取補助金等	0	0	0	3,000,000	0	3,000,000
受取助成金	0	0	0	3,000,000	0	3,000,000
小児がん骨髄移植基金	0	0	0	3,000,000	0	3,000,000
受取寄付金	4,000,000	122,545,883	1,200,000	0	69,287,478	197,033,361
指定寄付金	4,000,000	122,545,883	1,200,000	0	69,287,478	197,033,361
三重ファミリールーム指定寄付金	0	0	1,200,000	0	0	1,200,000
施設運営指定寄付金	0	122,545,883	0	0	0	122,545,883
国際交流指定寄付金	1,500,000	0	0	0	0	1,500,000
がん遺児奨学金指定寄付金	0	0	0	0	69,287,478	69,287,478
ゴールドリボン指定寄付金	2,500,000	0	0	0	0	2,500,000
特定資産評価損	8,463,314	0	0	0	0	8,463,314
一般正味財産への振替額	△ 6,744,639	△ 149,252,350	△ 2,916,734	△ 3,000,000	△ 54,062,446	△ 215,976,169
指定寄付金	△ 4,000,000	△ 149,252,350	△ 1,200,000	0	△ 54,062,446	△ 208,514,796
基本財産受取利息	△ 2,744,639	0	0	0	0	△ 2,744,639
受取助成金等	0	0	△ 1,716,734	△ 3,000,000	0	△ 4,716,734
当期指定正味財産増減額	△ 11,207,953	△ 26,706,467	△ 1,716,734	0	15,225,032	△ 24,406,122
指定正味財産期首残高	126,687,793	1,815,132,166	21,982,310	1,791,276	196,864,223	2,162,457,768
指定正味財産期末残高	115,479,840	1,788,425,699	20,265,576	1,791,276	212,089,255	2,138,051,646
III 正味財産期末残高	559,097,634	1,941,733,875	33,579,501	5,765,873	212,089,255	2,752,266,138

収入



支出



1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられること、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的としています。療養助成には、「一般療養助成」と「特別療養助成」の2種類があります。それぞれ助成対象者、対象事項は以下の通りです。

■一般療養助成

- 対象者**
- 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
 - 給与所得者：「課税される所得金額（課税所得）」が100万円以下の方／自営業の方：「課税される所得金額」に「専従者給与（控除）額の合計額」及び「青色申告特別控除額」を加算した金額が100万円以下の方
- 助成対象事項** 療養のために必要な諸経費全般
- 助成金額** 3万円（1人1回限りの助成）

■特別療養助成

- 対象者** 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
- 助成対象事項** ■入院療養のために必要な諸経費
- ・入院中の患児の面会にかかる費用（宿泊施設等利用の際の滞在費・付添費）
 - ・病院と自宅が片道約150km以上離れている場合の親子1往復分の交通費
 - ・患児の補装具作成のためにかかった経費
 - ・闘病に伴って必要となったきょうだい（未就学年齢）の保育料
 - ・造血幹細胞移植など、主治医が患児の治療上必要と認めたものに対してかかった経費（但し、健康保険の対象とならない薬剤や代替療法等にかかる経費は原則対象外）
- 助成対象期間** 申請書受理日から遡って3ヶ月間
- 審査** 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、助成内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

総額：14,592,000円

	一般療養助成	特別療養助成	骨髄移植加算
申請件数	61件	306件	96件
助成件数	61件	301件	96件
総助成額	1,830,000円	8,862,000円	3,900,000円
備考	助成金額 一律30,000円	平均助成金額 29,441円	平均助成金額 40,625円

一般療養助成及び特別療養助成は、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のキャンパ」、ノバルティスファーマ株式会社、NPO法人酒は未来を救う会、有限会社吉半からの寄付をいただきました。

骨髄移植加算については一般財団法人日本メイスン財団からの寄付により運営されました。



2 相談事業

(1) 小児がん相談事業

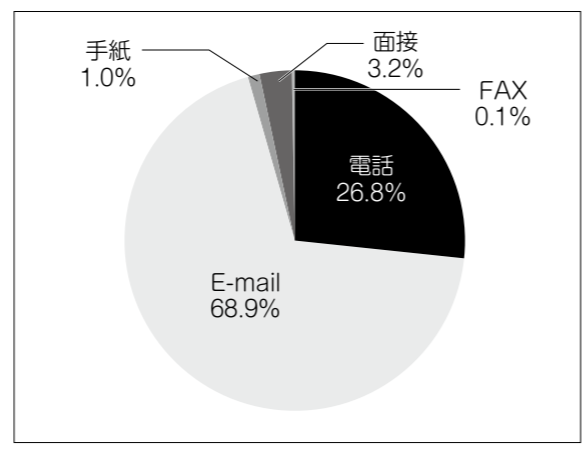
日本では年間約 2,000 人の子どもたちが、あらたに小児がんと診断されています。当会が設立された当時は不治の病とされていましたが、現在は医療技術の進歩により、小児がん全体の 7 割から 8 割が治るようになってきました。一方、未だ年間 500 人ほどの子どもが亡くなる厳しい現状もあり、小児がんは幼い命を脅かす病気の筆頭であることに変わりはありません。

患児・家族は、数ヶ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

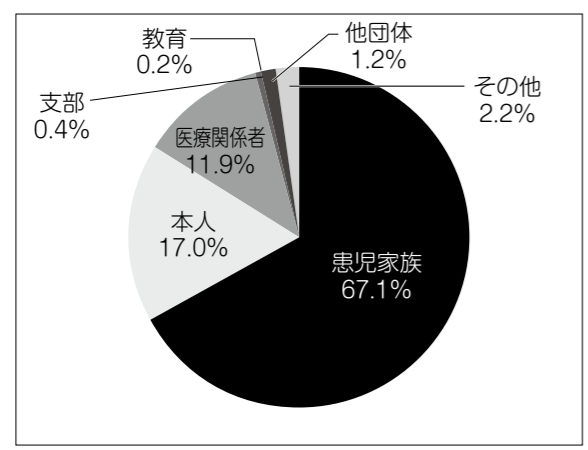
このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続したサポートが必要とされています。当会では、1973 年に専任のソーシャルワーカーを設置し、以来 40 年以上相談支援を行っています。本年度は、東京・大阪両事務所に常駐するソーシャルワーカーが計 6 名体制で、下記のような相談に応じました。

1. 相談方法 (単位：件)

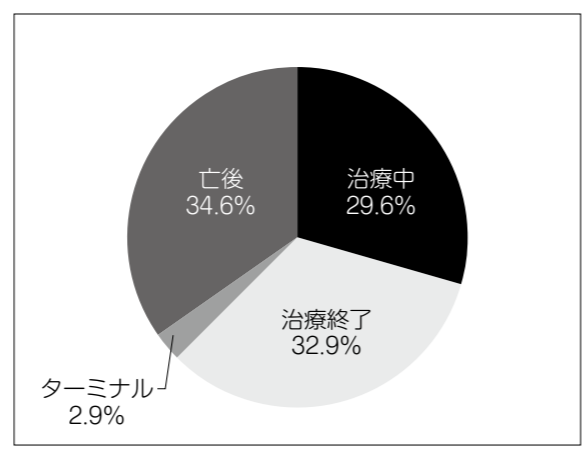
電話	1106
E-mail	2844
手紙	41
面接	131
FAX	6
計	4,128



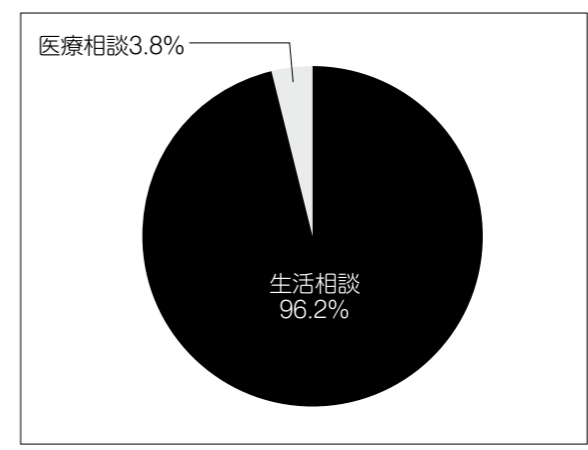
2. 相談者



3. 相談時期



4. 相談内容



■医療相談の内訳

(セカンドオピニオン、グリーンワーク、晚期合併症等に関すること)

医療相談の内訳	割合
セカンドオピニオン	75.6%
晚期合併症	10.0%
グリーンワーク	11.9%
告知	2.5%

■生活相談の内訳

(受診受療、療養生活、社会復帰、経済的問題に関すること)

生活相談の内訳	割合
療養生活	59.0%
受診受療	12.6%
経済的問題	12.1%
社会復帰	12.9%
その他	3.5%

(2) 小児がん こどもでんわ相談室

2015 年 8 月より、「小児がん こどもでんわ相談室」(フリーダイヤル：0120 - 307 - 164) を開設しました。毎月第 1 水曜日(祝日の場合は翌週)の 16 時から 19 時に、小児がんについての悩みや不安、疑問などに、ソーシャルワーカーと小児科医(奇数月)がお答えしています。

また、「小児がん こども電話相談室」の周知のために、本年度は小児がん拠点病院、小児がん診療病院、保健所等にチラシやカードを配布しました。

※本事業は平成 27 年度全日本社会貢献団体機構の助成金を受けて行いました。





(3) 相談会の開催

①個別相談会

患児・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

年月日	内容	相談医	会場
2015.11.10	小児科	井上 雅美 先生 大阪府立母子保健総合医療センター 血液・腫瘍科	大阪
2016. 1. 8	脳神経外科	柳澤 隆昭 先生 東京慈恵会医科大学 脳神経外科 小児脳腫瘍部門	東京（本部）
2.19	小児がん全般に関すること	細谷 亮太 先生 嘱託医／聖路加国際病院 小児科	東京（本部）
3.16	小児がん全般に関すること	前田 美穂 先生 日本医科大学付属病院 小児科	東京（本部）

②グループワーク／交流会

自立（自律）や就労に悩む小児がん経験者の保護者を対象としたグループワークを企画し、7月2日に2名の保護者にご参加いただきました。当初の予定では連続したグループワークの予定でしたが、より参加しやすく、幅広く経験を共有できる場をと考え、8月30日に交流会を開催しました。16名の親御さんにご参加いただき、活発な情報交換を行いました。

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス浅草橋（東京）、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年7回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカーの司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しました。

■サポートグループ

2015年度は秋と冬に開催いたしました。秋の回は、2015年10月2日～30日の期間に開催し2名が、冬の回は2016年2月18日～3月18日の期間に開催し3名が参加しました。

グループの開催前に参加者と個別の事前面接を行ったうえで、ソーシャルワーカー同席のもと、毎週1回、原則90分の集まりを計5回持ち、各回とも異なるテーマのもとに話し合いを行いました。グループ終了後には再び参加者と個別に事後面接を行いました。

■サポートグループ同窓会

サポートグループが終了した後は、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後の2回にわたり同窓会と称した集まりをもっています。本年度は、7月17日に昨年度春に開催した1年後の同窓会を行い5名の方が参加されました。

(5) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

本年度は2015年10月24日にがんの子どもを守る会本部事務所にて開催し、全国から3グループ4名が参加しました。アドバイザーとして一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパンの天野慎介氏をお招きし、前半は天野氏の講演、後半はロールプレイを行い、経験者の会の運営や意義を確認する有意義な機会となりました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は5団体に計9万円の活動費の支援を行いました。また、小児がん経験者による企画（プロジェクト）に対する助成金制度を新設し、「シェイクハンズ！～小児がん経験者の集い～」に25万円、「Fellow Tomorrow（フェロー・トゥモロー）／オークの木／WISH 合同交流会～就労システムについて考えよう～」に6万円の支援を行いました。

③Fellow Tomorrow（フェロー・トゥモロー）／WISHへの支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow（フェロー・トゥモロー）」の2015年6月14日に開催された総会、及び9月6日、12月6日に開催された定例会に当会ソーシャルワーカーが参加し、運営の助言や参加者への支援を行いました。また、2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」についても、ソーシャルワーカーが運営の助言や参加者の支援を行いました。

④スマートムンストーンキャンプ

2015年7月25日から27日まで、山梨県北杜市清里のキープ自然学校にて、第19回スマートムンストーンキャンプ（SMS）を開催いたしました。SMSは告知をされて小児がん向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。2011年からは、キャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くしていきながらも、新しい仲間を迎えられるよう運営スタッフ主体のキャンプから「小児がん経験者が主体となって運営するキャンプ」を目指し運営形態を変え、2012年度からは当会の事業として、企画運営はボランティアを中心とした実行運営グループが行うことになりました。今年は参加者22名、ボランティア15名、キャンプリーダーの稲田浩子先生（久留米大学小児科）と小児がん経験者のボランティアリーダー3名を含む実行運営グループ7名の44名で開催されました。なお、本事業は毎日新聞東京社会事業団のご寄付によって運営されています。

(6) 親の会支援

①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

本年度は、2015年6月14日に開催、午前は、親の会運営に際して重要となる「共有・共感・情報交換」のキーワードを念頭に、グループワークを行いました。話し合いのテーマを7つに分け、1グループ4～5名で自由に情報や意見交換をしていただき最後に全体で発表をしていただきました。グループワークで出



たキーワードをカードに書き出していただいたところ、模造紙がいっぱいになり、活発に意見が交わされていた様子が見てとれました。

午後は、当会の2015年度年次大会のプログラム(29ページ参照)に合流し、「小児がんの子ども教育を考える」、及び分科会に参加していただきました。

②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は、21団体に計57万5千円の活動費の支援を行いました。

(7) きょうだいの支援

①富士山にアタック!!2015

小児がんの子どもをきょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。当会は2001年より毎日新聞社の支援を受けて小児がん患児のきょうだいのための富士山キャンプを行っています。14回目となる本年度は7月25日から27日の日程で小児がんの子どもをきょうだい11名、ボランティア9名、医師及び当会職員を含む合計29名が参加しました。参加者で共に過ごす時間を大切にするため、初日に体育館でレクリエーションをして親睦を深め、富士山にも「登頂ではなく、登れるところまで登る」を目指し、6時に宿舎を出発し8合目まで登ることができました。

2008年より開催している「きょうだいのお話会」も参加者にとって貴重な時間になりました。

協力：株式会社スタイリングライフ・ホールディングス プラザスタイルカンパニー、コールマンジャパン株式会社、MAMMUT SPORTS GROUP JAPAN

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、毎日新聞東京社会事業団、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」、全日本社会貢献団体機構

②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、富士山にアタック!!参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのきょうだいの交流会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どもをきょうだいたちが中心となって企画・運営をし、「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ(天道虫)が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を込めています。同じ小児がんの子どもをきょうだい同士が、こころにとめてある想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感をもてる場として、10月25日の親睦会と3月27日の交流会の計2回を開催し、初参加のきょうだいも含めて充実した時間を過ごしました。

③きょうだいイベント

小児がんの子どもとお出かけすることはあっても、きょうだいとふたりっきりでお出かけすることがない、ひとりじめをしてお出かけする機会が欲しいという声が寄せられてきます。そこで、小児がんの子どもをきょうだいが、お母さん、お父さんとお出かけできるイベントを2店のミシュラン星付きレストランのご協力をいただき、以下のように開催しました。アンケートには「ひとりじめ」というタイトルに対し、子どもが想像以上に嬉しく感じてくれたようで何日も前から「もうすぐひとりじめ…」と何度も言っていました」など、特別な一日となった様子が語られていました。

第1回 Restaurant「Ryuzu」日時：2015年8月5日 参加者：きょうだい8名を含む7組15名

第2回 御料理「与志福」日時：2015年8月20日 参加者：きょうだい7名を含む7組14名

※本事業は平成27年度全日本社会貢献団体機構の助成金を受けて行いました。



AJOSC
全日本社会貢献団体機構

(8) 車いすレンタル事業

小児がんの中には、病状の進行と共にADLが低下し、障害認定がその低下に追いつかないことが生じます。子ども用車いすは、高価であること、購入に時間がかかること、貸出サービスが少ないなど、円滑な準備が難しく、子どもたちのより良い時間を過ごすことを阻む要因にもなっています。当会では、従来より、東京と大阪の事務所にて、子ども用車いすの貸し出しをしておりますが、直接、取りに来ていただけることが条件となり、遠方の方にお貸しできないことが課題となっております。

そこで、このたび「ザ・レジェンド・チャリティプロアマトーナメント実行委員会」様より頂戴した寄付をもとに子ども用車いすを購入し、複数の拠点病院の協力のもと貸出していただくことで、各地域の小児がんの子どもたちのために活用されるよう事業の準備をすすめております。事業の開始は2016年度を予定しております。



THE LEGEND
CHARITY PRO-AM TOURNAMENT

3 治療研究事業

(1) 治療研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、23件(助成総額7,000,000円)を助成いたしました。助成金の一部についてはロート製薬株式会社から基金、ゆめちゃんを救う会からのご寄付も活用させていただきました。

〈2015年度 治療研究助成一覧〉

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

氏名(敬称略:順不同)	所 属	研究名称
田中 祐吉	独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター 臨床研究所・病理診断科	小児固形腫瘍の病理組織学的検討とそれに基づく病理組織アトラスの改定および作成
本橋 秀之	国立大学法人 岡山大学 生殖補助医療技術教育研究センター	小児がん患者の将来的妊孕性を温存する卵巣組織凍結保存の基礎研究
上別府圭子	東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 家族看護学分野	小児造血幹細胞移植の急性期における父親と母親の心理的問題を 予防するための前向き縦断的研究
野上 愛	就実大学 薬学部 薬効解析学分野	ヒアスパラギナーゼ誘発アレルギー反応に対するin vitro 評価系の確立
齋藤 祐介	宮崎大学 医学部 機能制御学講座腫瘍生化学分野	小児難治性白血病幹細胞におけるGPR56の機能解析と標的治療法の開発
川久保尚徳	九州大学大学院医学研究院 小児外科学分野	難治性神経芽腫モデルマウスを用いた革新的免疫治療の開発
宮村 能子	大阪大学病院 小児科	小児悪性腫瘍疾患治療後の成長と発育の評価 ～おもに栄養評価・食生活の観点から～



氏名(敬称略:順不同)	所 属	研究名称
三輪 真嗣	金沢大学大学院医学系研究科 先進運動器医療創成講座(整形外科)	小児悪性骨腫瘍に対する低侵襲手術の開発
尾崎 充彦	鳥取大学 医学部 病態生化学分野	骨肉腫肺転移阻害メカニズムに基づいた革新的肺転移予防戦略の構築
大杉 夕子	国立病院機構大阪医療センター 小児科	小児白血病研究会(JACLS)参加施設における急性骨髄性白血病経験者を対象にした晩期合併症とQOLに関する後方視的調査と今後の課題に関する研究
清谷知賀子	国立成育医療研究センター 小児がんセンター	小児がん経験者のトランジションステップに関する研究
仲野 道代	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 小児歯科学分野	小児白血病患者における永久歯胚の形成障害に関する多施設共同研究
岩田慎太郎	千葉県がんセンター 整形外科	ユーイング肉腫患者の血中循環セルフリー DNAにおける融合遺伝子の定量とバイオマーカーとしての有用性
加藤 啓介	茨城県立こども病院 小児血液腫瘍科	難治性小児造血器腫瘍固形腫瘍の新たな細胞免疫療法の開発 —輸注されたドナーリンパ球中の有効な分画の同定
合山 進	東京大学医科学研究所先端医療研究センター 細胞療法分野	ヒト臍帯血を用いた小児骨髄性白血病モデルの確立
浦山ケビン	学校法人聖路加国際大学 臨床疫学センター	生殖細胞系DNAを用いた小児急性リンパ性白血病疫学研究
山崎 文之	広島大学大学院医歯薬保健学研究院 脳神経外科学	放射線治療、化学療法の脳発達への影響の解明
宮地 充	京都府立医科大学 大学院医学研究科小児発達医学	PD-L1を標的とした横紋筋肉腫治療の検討
長谷井 嬢	近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション医学	ABCトランスポーターに着目した、骨肉腫新規治療戦略と 予後予測因子としての有益性の検討
清水 律子	東北大学大学院医学系研究科 分子血液学分野	ダウン症関連巨核芽球性白血病の分化誘導剤開発
金崎 里香	弘前大学大学院医学研究科 テニユアトラック(小児科学領域)	ダウン症に付随する一過性異常骨髄増殖症(TAM)発症機構の解明 —KIT遺伝子発現制御に注目して—
榎本 秀樹	神戸大学 大学院医学研究科 神経分化・再生分野	ALK遺伝子変異による神経芽腫発症機構解明
柳沢 龍	長野県立こども病院 血液腫瘍科	地域における小児がん終末期在宅療養に対する実施体制の構築

(2) 海外留学助成

小児がん領域における若手オンコロジストの育成並びに当領域における研究のより一層の向上・発展を図ることを目的とし、海外の大学あるいは研究施設に留学し小児がん領域における基礎・臨床の研究を行う臨床研究者に対して奨学助成を行う「PediatricOncologyResearchFellowship」(PORF 海外留学助成制度)を2001年度から実施しています。

4 総合支援施設運営事業

(1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

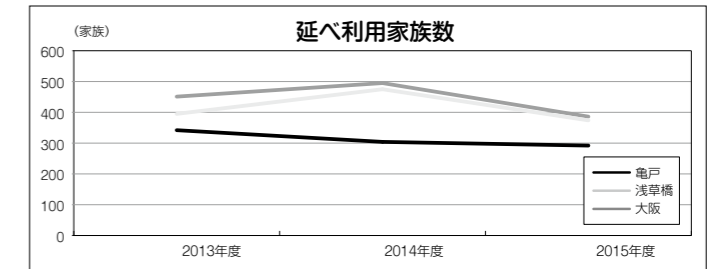
アフラックペアレンツハウスは小児がんなど難病の患児・家族のための日本で最初に建設された総合支援センターです。遠隔地から治療のために来ている付き添い家族のための宿泊施設としてだけでなく、治療中、治療後の患児、家族が抱える様々な問題に対して当会のソーシャルワーカーが相談に応じる等様々なかたちで支援をしています。亀戸(東京都江東区亀戸、2001年2月開設)、浅草橋(東京都台東区浅草橋、2004年12月開設)、大阪(大阪府大阪市中央区、2010年1月開設)の3施設は、いずれも開設以来順調に運営しており2015年5月には、アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベントを開催することができました。

なお、2016年3月末時点で3棟合わせて延べ122,580人を超える患児・家族の皆様にご利用いただいております。

ります。運営費用については、アフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店(アフラック全国アソシエイツ会)の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

■利用状況

延べ利用家族数(2015年4月1日~2016年3月31日)
 亀戸(16室) / 292家族
 浅草橋(17室) / 374家族
 大阪(12室) / 386家族
 計 1,052家族



(2) その他の宿泊施設

①あかつきハウス

1995年にオープンした「あかつきハウス」は、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設です。区立住宅「あかつき住宅」の1戸を借り受け、管理・運営しています。利用料は1部屋2,000円(宿泊代と維持管理費として)です。2015年4月1日より2016年3月31日までの間、延べ36家族の利用がありました。

②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会(三重大学附属病院小児科内)と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の利用は300円です。2015年4月1日より2016年3月31日までの間、延べ81家族の利用がありました。

5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題点を訴え、発信し続けてきました。

近年は小児がん拠点病院の決定や児童福祉法一部改正により「小児慢性特定疾病医療費助成制度」として新たな展開、難病新法の成立があり、患児・家族の療養環境に大きな変化が起きた節目の時期になりました。

当会では多くの会員や様々な関係団体と密につながることで、当局に対し患者家族の声としての要望書を提出してきました。当会の会員が国や地方自治体が運営する様々な協議会に患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。



■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会等

国、地域：中央機関アドバイザーボード、関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会
 都道府県：東京都、大阪府（小児がん部会）、富山県、岡山県、愛媛県、福岡県、沖縄県
 小児慢性協議会：宮城県、新潟県、愛媛県、宮崎県

6 支部活動

当会には全国に21の支部があります（2016年3月31日現在）。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
4月	福井	支部総会
5月	富山	シンポジウム・交流会（支部総会）
	福井	ピアサポートカフェ（嶺北地区）
	静岡	ポルシェジャパン 小児がん患児試乗体験
6月	香川	支部総会
	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
	福島	シンポジウム「小児がん患者の教育支援」
	新潟	小児科病棟相談会
	関西	のぞみトークきんき 2015 「小児白血病治療の変遷と晩期合併症」 「小児がんの晩期合併症内分泌疾患を中心に」
7月	宮崎	子どもを亡くした親の会
	宮城	そらの会（子どもを亡くした母親の会）
	新潟	小児科病棟相談会、ピアサポート研修会、支部総会、あおぞらの会（子どもを亡くした親の会）
	岡山	交流会
8月	香川	おしゃべり会、院内相談会
	宮崎	講演会「小児がん治療の現場で求められるもの」
	宮城	ネイルアート&コーヒーサロン（交流会）
9月	福井	ピアサポートカフェ（嶺南地区）
	香川	交流会、子どもを亡くした親の会、四つ葉のクローバー（小児がん経験者）の会
10月	北海道	講演会「病気の子どもの教育について」
	宮城	秋のファミリーカフェ（ミニコンサート）
	富山・福井	のぞみ北陸小児がん交流会 in 金沢
	東海	虹の会（子どもを亡くした親の会）
11月	関西	小児がん経験者の親の交流会
	宮城	いも煮会（交流会）
	福島	個別相談会
	静岡	ポルシェジャパン 小児がん患児試乗体験、静岡県東部健康福祉センター共催講演会 「病気を持つ子どもの教育～現在とこれから～」
	岡山・広島・香川・愛媛・高知	第3回中国四国支部合同交流会（香川県善通寺）

開催月	支部	内 容
11月	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
	関東	交流会
	長野	支部総会
	新潟	あおぞらの会（子どもを亡くした親の会）
	福井	ピアサポートカフェ（坂井・あわら地区）
	九州北	第43回講演・交流会「学びの時間を仲間と共に自分らしく過ごすために」
12月	九州西	講演会「ひとりじゃないよ～びょうきの子どものときょうだいへの支援を考える～」
12月	宮城	アロマハンドマッサージカフェ（交流会）
1月	福井	ピアサポートカフェ（丹南地区）
2月	宮城	研修会
	関西	近畿小児がん研究会公開シンポジウム「小児・AYA世代がん さらなる高みを目指して」
3月	福島	子どもを亡くした家族の会
	東海	三重講演会「小児がんキャンプ10周年を迎えて」「小児がんと造血細胞移植」・相談会
	広島	MAKTY（小児がん経験者）交流会

※他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

支部活動の風景



院内クリスマス会



講演会の様子

(2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に、2015年6月14日、および10月18日、19日の2回にわたり支部連絡会を開催しました。本年度は、ピアサポート研修としてロールプレイを中心に実施した他、がん対策についての情報提供を行いました。また当会としてどのように小児がん患児・家族の支援に取り組んだらよいか、具体的には支援をするに当たってどんな所に留意したらよいか等を昨年引き続きディスカッション中心に議論を深め、今後の活動に活かすことを目指しました。この連絡会開催にあたり「長期療養の子どもたちとご家族」の支援に取り組む武田薬品工業株式会社より一部助成をいただきました。



ディスカッションの様子



支部連絡会 発表



7 広報・啓発・募金活動 等

第20回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2015年11月27日(金)～11月29日(日)、甲府富士屋ホテルにて、第57回日本小児血液・がん学会学術集会(会長:杉田完爾)、第13回日本小児がん看護学会学術集会(会長:石川眞里子)、第20回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムを下記の通り開催いたしました。

後援:山梨県、甲府市、公益財団法人日本小児科学会、特定非営利活動法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会

■公開シンポジウム「小児がん経験者の伴走者」

(日本小児血液・がん学会学術集会、日本小児がん看護学会学術集会との共同開催)

- ・日 時:2015年11月29日(日) 13:50～15:50
- ・座 長:杉田完爾(山梨大学 大学院総合研究部 小児科学講座)
石川眞里子(山梨大学 大学院総合研究部 成育看護学講座)
- ・シンポジスト:1. 山本創平(山梨県立谷村工業高等学校)
2. 春名由一郎(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター 主任研究員)
3. 櫻井幸代(小児がん経験者の配偶者)
4. 古賀裕治(小児がん経験者)
- ・参 加 者:約100名

■ワークショップ「きょうだいのガイドラインをつくろう」

- ・日 時:2015年11月29日(日) 10:50～12:20
 - ・座 長:小澤美和(聖路加国際病院 小児科)
- 2013年、2014年と開催した「きょうだいについて語ろうガイドライン作成に向けて」での討議やその後いただいたご意見をもとに、ガイドライン作成委員会にて作成した素案を示しながら、参加された皆様からご意見を募りました。

- ・参 加 者:約100名

※本プログラムは、公益財団法人正力厚生会の助成を受けて行いました。

■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1998年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。全国から寄せられた46作品を展示しました。

- ・期 間:2015年11月27日(金)～11月29日(日)
- ・来 場 者:約700名

※本プログラムは公益財団法人JKAの助成を受けて行いました。

■つみ木ワークショップ「つみ木であそぼう」

山梨大学医学部附属病院の小児科病棟で定期的に開催されている「つみ木ワークショップ」を木楽舎つみ木研究所のご協力のもと、当会主催で開催いたしました。



- ・日 時:2015年11月28日(土) 14:00～16:00

- ・参 加 者:約30名

※本プログラムは全日本社会貢献団体機構の助成金を受けて行いました。

■チャリティマラソン

- ・日 時:2015年11月28日(土) 早朝

- ・場 所:山梨県甲府市武田神社周辺

- ・参 加 者:約60名

第57回日本小児血液・がん学会学術集会共同開催でチャリティーマラソン&ウォーク～晩秋の武田神社を巡る朝～を開催いたしました。

第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いまそしてこれから～」

- ・日 時:2015年4月4日(土)

- ・場 所:神戸国際会議場

第29回日本医学会総会2015関西のご協力のもとパネルディスカッションを中心にした「小児がん医療の姿～いまそしてこれから～」を開催いたしました。このイベントでは、神戸の会場への来場参加のみならず、Web中継会場を全国19か所で実施いたしました。当イベントは、15の小児がん拠点病院の中でブロック別の中心的役割を担っている施設や、2014年6月に設立された希少がんセンター、また、中央機関と診療病院などの医療関係者と小児がん患児・家族および小児がん経験者など当事者が議論を重ね、皆にとってふさわしい小児がん医療を考え、共有することにより、今後のより良い小児がん治療環境の実現に資することを目的として開催いたしました。

- ・来 場 者:神戸会場(約90名) / Web視聴者(約150名)

- ・Web中継会場:北海道会場(北海道大学):北海道支部 / 福島会場(福島県立医科大学):福島支部・宮城支部 / 東京会場(当会浅草橋事務所セミナールーム):関東支部 / 新潟会場(駅南貸会議室 KENTO):新潟支部 / 福井会場(福井大学医学部附属病院):福井支部 / 広島会場(広島大学 医学部広仁会館):広島支部 / 愛媛会場(愛媛県立中央病院):愛媛支部 / 香川会場(四国こどもととなの医療センター):香川支部 / 福岡会場(九州大学 医学部総合研究棟):九州北支部

〈司会 / パネリスト〉(敬称略・順不同)

- ・司 会:堀部敬三(国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター・日本小児血液・がん学会 理事長) / 山下公輔(公益財団法人がんの子どもを守る会 理事長)

- ・パネリスト:有國美恵子(疾病別の会:ユーイング肉腫家族の会) / 池田恵一(院内親の会:ほほえみの会) / 外間登(小児がん経験者の会:ti-da わらばーむ代表) / 小林正夫(広島大学小児科) / 米田光宏(大阪市立総合医療センター 小児外科) / 松本公一(国立成育医療研究センター 小児がんセンター長) / 川井章(国立がん研究センター 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科 / 希少がんセンター長) / 渡辺新(秋田中通総合病院) / 西川亮(日本脳腫瘍学会 理事長・埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター)

協賛:(敬称略・順不同) 公益財団法人原田積善会 / 東芝メディカルシステムズ株式会社 / サノフィ・ジャパングループ
後援:(順不同) 厚生労働省、他、小児がん関連学会、全国の各院内親の会、小児がん疾患別親の会、小児がん経験者の会、支援団体、等 計74団体



神戸会場の風景



Web中継会場の様子

ブース出展

小児がんの子どもたちへの支援を目的にした各種チャリティーイベント会場や小児がん関連の会合の会場にて、来場された方々に、小児がんの現状や当会の活動等への周知活動や募金活動を実施しました。



ブース展示

ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多くの企業や有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

※ 500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ6,900個、ストラップ2,890個、スワロフスキー付ピンバッジ520個のご支援をいただきました。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ

常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で41か所に設置のご協力をいただいております。



◀ 常設募金箱

支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国31か所に設置していただいております。



支援自動販売機 ▶

小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患児・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。

※ 今年度は全日本社会貢献団体機構の助成金を受けて、冊子・資料類の増刷をいたしました。



AJOSC
全日本社会貢献団体機構

国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会（CCI：Childhood Cancer International）により創設され、国際小児がん学会（SIOP：The International Society of Pediatric Oncology）など世界的な主要機関のネットワークにより広がっています。当会では、2016年2月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。

後援：厚生労働省 協賛：公益財団法人 原田積善会

■啓発チラシ及びチャリティグッズの頒布

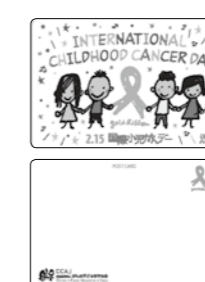
小児がんのことを広く知っていただくために啓発チラシ及び下記チャリティグッズを作成、頒布いたしました。



オリジナルTシャツ



オリジナルポケットティッシュ



カード



チラシ

- | | |
|-------------------|------------|
| ・国際小児がんデー啓発チラシ | 約 50,000 枚 |
| ・オリジナルTシャツ | 約 650 枚 |
| ・ゴールドリボンバッジ&ストラップ | 約 2,000 個 |
| ・国際小児がんデー啓発ティッシュ | 約 15,000 個 |
| ・国際小児がんデー啓発カード | 約 7,800 枚 |

■キャンペーン関連活動

〈啓発チラシ配布及び募金活動〉

キャンペーンの期間、本部及び支部の主催、もしくは県庁や病院など関係機関との協力のもと、啓発チラシの配布や募金活動、小児がんについて考えるイベントなど、全国各地にて32を超える活動を行いました。活動の様子は各地域のメディアでも取り上げられました。



JR高知駅前/高知中央公園北入口



新潟万代シティ

〈小児がんに関連する常設展示〉

公共施設や病院、ショッピングモール等の一角を使い、小児がんの子どもたちが描いた絵画のパネルや小児がんの資料展示を行いました。また、小児がんのシンボルであるゴールドリボンで装飾した「ゴール



「ドリボンツリー」の展示も各地域にて行いました。展示箇所は全国で15か所を超え、小児がんの認知度向上に努めました。



世界らん展（東京ドーム）



九州大学病院



小児がん患者とその家族の支援について考えるシンポジウム（島根県）

その他、国際小児がんデーキャンペーンの趣旨にご賛同くださった多数の関係機関、企業、個人の方からのご支援をいただきました。

〈主な協力イベント〉

- ・神戸フィルハーモニック（コンサート会場にて啓発・募金活動）
- ・横浜がんフェスタ（ブース出展）
- ・世界らん展（ブース出展：啓発、募金活動）
- ・がんを知る展（絵画パネル展示等）
- ・小橋建太バレンタイントークショー（啓発・募金活動）
- ・西口プロレス15周年大会（啓発・募金活動）
- ・国立成育医療研究センター 臨床懇話会（ブース出展）
- ・島根県小児がん患者とその家族の支援について考えるシンポジウム（会場にて啓発・募金活動）

〈主な協力企業〉

- ・明治安田生命保険相互会社（小児がんの講演会実施、絵画パネル展示、募金活動）
- ・第一生命保険株式会社 大阪市本町事業所（啓発・募金活動、絵画パネル他啓発資料など設置）
- ・日本生命保険相互会社（啓発・募金活動の協力）
- ・ノバルティスファーマ株式会社（小児がんの講演会実施、絵画パネル展示、募金活動）
- ・日本チャールス・リバー株式会社（啓発・募金活動）
- ・株式会社なゆた（啓発、募金活動）



第一生命保険株式会社 大阪市本町事業所



日本チャールス・リバー株式会社

※1 キャンペーンの報告等、詳細はスタッフブログでもご紹介しております。
<http://blog.canpan.info/nozomi/>

8 国際活動

国際小児がんの会（CCI）への参加と協力

■ CCI (Childhood Cancer International) 年次総会への参加

2015年10月7日から11日に南アフリカのケープタウンにて SIOF（国際小児がん学会）と同時開催された第22回 CCI 年次総会に、理事長、小児がん患児の親1名、および小児がん経験者3名の計5名が参加しました。小児がん経験者の参加者は公募の上決定いたしました。

なお、CCI 全体の加盟国は2015年度年次総会にて90カ国181団体となりました。

※2015年2月17日より ICCCP（The International Confederation of Childhood Cancer Parent Organizations）から CCI に名称が変更になりました。

PHPF (ParentsHelpingParentsFund) への協力

発展途上国等の CCI 年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に600ユーロの寄付を行いました。また、2014年度の国際小児がんの日キャンペーンで募った募金の中から、CCI を通じて、2015年4月25日に巨大地震で被害のあったネパールのがん関連団体に対し30万円の寄付を行いました。

9 奨学金事業（アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度）

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014年度より奨学金の給付を開始しました。本年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。

※当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・18歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。 ・給付開始時に高等学校等に在学中の方。 ・申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。
対象となる教育機関	「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般過程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」
給付金額	<ul style="list-style-type: none"> ・月額25,000円 ・対象となる教育機関で正規の最短修業期間。 ・奨学金は原則返還を要しません。
本年度実績	小児がん経験者：申請件数 79件、助成件数 21件 がん遺児：申請件数 266件、助成件数 122件 給付金額：48,550,000円



10 ボランティアコーディネート・研修会

(1) 遊びと学習のボランティア たんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」は、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児科病棟にボランティアを週1回派遣し、入院児を対象に遊びや学習支援活動を行っています。本年度は、小児科プレイルームでの遊びの支援が主な活動でした。また、活動を行う上での注意事項、知識や情報交換を目的としたミーティングを6回（隔月）、外部から講師を招いての研修会を2015年8月21日に開催するとともに、活動報告として「たんぽぽ新聞」を4回発行しました。同院の病棟保育士、ボランティアコーディネーターの方々と積極的な連携を図るとともに、同院のボランティア組織「スマイルボランティア-JIKEI」の調整会議及び懇親会にも参加しより良い関係を築きながら活動を行っています。

(2) ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、本部事務所（東京）と大阪事務所で延べ385名からボランティア協力をいただきました。また事務所外におきましても、キャンプ、病院派遣、イベント、自宅作業、全国の支部活動等で多数の個人、団体の方からご協力をいただきました。

当会にてボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修会を実施し、事業内容やボランティアとしての心構えなどへの理解を深めていただきました。

11 調査研究協力

■調査研究委託

2015年度の当会会員を対象にした調査研究の申請は3件あり、調査研究委員会にて審議した結果、下記2件について被調査研究者の紹介とフォローを行いました。

研究名称	協力内容
「小児期、思春期・若年成人期（AYA期）発症がん経験者の性に関する行動、知識、コミュニケーションと情報ニーズ調査」 国立がん研究センターがん対策情報センター がんサバイバーシップ支援研究部 部長 高橋 都	対象者：小児がんサバイバー（小児がん寛解後の20歳以上の男女100名） 方 法：webによる無記名アンケート調査
「総合的なAYA(Adolescent and Young Adult)世代のがん対策のあり方に関する研究（研究代表者：堀部敬三）分担研究「AYA世代がん患者実態調査」 （本調査前のパイロットスタディ） 公益財団法人がんの子どもを守る会 ソーシャルワーカー	対象者：当会会員及び患者家族会のリーダー10名程度 方 法：調査用紙の妥当性についてグループフォーカスインタビュー

■研究協力

本年度は下記研究に携わりました。

研究名称	協力内容
「総合的なAYA(Adolescent and Young Adult)世代のがん対策のあり方に関する研究」 堀部 敬三（国立病院機構名古屋医療センター 小児科）	分担研究者
「初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ層臨床試験」 松谷 雅生（埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科）	実行委員会委員

12 2015年度年次大会開催

2015年6月14日、飯田橋レインボービル（東京都新宿区）にて「小児がんの子どもの教育を考える」をテーマに年次大会を開催しました。今年度は、全体会に並行して小中学生を対象とした子どもプログラムとして、「わくわくサイエンス教室」を開催しました。

全体会	分科会
理事長挨拶 活動報告 パネルディスカッション 「小児がんの子どもの教育を考える」 司会 竹之内 直子氏（神奈川県立こども医療センター 小児看護専門看護師） 張 光陽氏（当会理事/九州北支部幹事） 情報提供講演 「病弱児教育の現状」 丹羽 登氏（元 文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 教科調査官/現 関西学院大学 教育学部 教授） パネリスト 日下 奈緒美先生（国立特別支援教育総合研究所 教育研修事業部） 塚越 美和子先生（埼玉県立岩槻特別支援学校 特別支援教育コーディネーター） 本庄 公巳先生（東京都公立小学校 元 校長） 鈴木 彩氏（国立成育医療研究センター ソーシャルワーカー）	1 個別医療相談 2 子どもを亡くした両親のために 3 教育 4 小児がん経験者 5 きょうだい 6 社会活動

※本事業は日本郵便株式会社 平成27年度年賀寄附金配分金を受けて開催しました。

13 企業・団体からのご協力（敬称略・順不同）

物品寄付

アフラック広報部、アフラック近畿総合支社、アフラック大阪総合支社、アフラック大分支社、アフラック保険サービス株式会社、AIG 富士生命保険株式会社、株式会社大和証券グループ本社、JX ホールディングス株式会社、子供地球基金、株式会社スタイリングライフ・ホールディングスプラザスタイルカンパニー、一般社団法人日本児童家庭文芸家協会、一般社団法人霞会館、株式会社ガイア、コールマンジャパン株式会社、MAMMUTSPORTSGROUP JAPAN、第一生命労働組合、セカンドハーベスト・ジャパン、有限会社フロムジャパン、株式会社保険オフィスさとう、株式会社第一総合企画、毎日新聞（事業本部）、第一生命保険株式会社（関西総局 FP コンサルティング部）、第一生命保険株式会社大阪市本町事業所、大同生命保険株式会社（渋谷支社第2営業課）、CFJ 合同会社、株式会社アルマダ、加藤活文堂、ローソン浜寺石津西4丁目店、株式会社リアルメイト、株式会社ジューピターテレコム、アフラック近畿法人アソシエイツ会、アフラック東京コールセンター、アフラック高松支社アソシエイツ会、アフラック滋賀支社アソシエイツ会、アフラック鹿児島支社アソシエイツ会、アフラック石川支社アソシエイツ会、アフラック秋田県アソシエイツ会、アフラック浜松支社アソシエイツ会、アフラック奈良県アソシエイツ会、アフラック岐阜支社、アフラック石川県アソシエイツ会、アフラック島根支社アソシエイツ会、アフラックサービスショップ持田店 アフラック沼津支社アソシエイツ会、株式会社ニッポーファミリー、有限会社プラスト、日本生命保険相互会社、日本貿易会職員一同、株式会社トポスエンタープライズ、保険の窓口グループ株式会社、株式会社 KANSOH、株式会社桜井デザイン、和歌山県有田川町母子保健推進員会、株式会社 ETERNAL、読売アクト大阪、募集代理店荒井芳子、LB プラニング中野敦成、他

ご招待

アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）、認定特定非営利活動法人木の会、エーザイ株式会社、東芝メディカルシステムズ株式会社、一般社団法人日本メイスン財団、柏レイソル、毎日新聞社、川島成道音楽事務所、ひとつの会、栗山巧（埼玉西武ライオンズ）、アンダーズ東京、他

募金活動、他ボランティア活動

明治安田生命保険相互会社（営業人事部）、日本生命保険相互会社（法人市場部）、日本チャールス・リバー株式会社、ライフテクノロジージャパン株式会社、吉田デザイン事務所、株式会社なゆた、ラルフローレン、第一生命保険株式会社大阪市本町事業所、小林芙蓉後援会、和宗総本山四天王寺、神戸フィルハーモニック、和歌山県有田川町母子保健推進員会、南都銀行新大阪支店、アフラック大阪総合支社アソシエイツ会、BC ホールディングス株式会社、アフラック愛知総合支社アソシエイツ会 アフラック近畿第一金融法人支社、他

～その他、支部においてもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～



寄付・募金者一覧

(2015年4月1日～2016年3月31日)

寄付・募金者一覧



寄付者一覧

※敬称略

AGC マイクロガラス株式会社 CBC 株式会社 Coeur Hair Harvey Paul A.S. ICAP 東短証券株式会社 JFE 商事株式会社 JFE スチール株式会社 MSD 株式会社 NPO 法人 酒は未来を救う会 NPO 法人 目黒ユネスコ協会 TRY Jazz Music Office 相川 勝 相澤 万亀子 愛知製鋼株式会社 相原 大和 青木 千賀 青野 幸治 赤城乳業株式会社 赤根 宏行 秋本 俊治 秋山 幸子 秋山 由美子 浅岡 恵美 浅野 通直 アサヒグループホールディングス株式会社 浅見 美紀 蘆田 康子 熱田 裕 アフラック 横浜支社 アフラック三重県アソシエイツ会 阿部 加津子 アポットジャパン株式会社 天瀬 毅 天野 功二 荒木 真悟 安斎 紀 安藤 頼枝 安藤 なおゆき 飯島 麻友美 飯田 雅史 飯塚 敦夫 飯塚 忍 五百川 麻子 池田 晴美 池田 洋子 石井 希洸 石井 隆 石井 芳枝 石上 久美 石川 徳光 石川 幸雄 石田 佳子 石橋 文子 石橋 昶志 石橋 弘子 石橋 裕史 石橋 裕子 石原 貴泰 泉 由幸 伊勢本 敬子 磯部 直美	井田 正美 板垣 松平 市川 瑞穂 一木 恵子 一瀬 すみ 一般財団法人 医療情報健康財団 一般財団法人 日本メイスン財団 一般財団法人 凸版印刷三幸会 一般財団法人 緑風会 一般社団法人 信託協会 一般社団法人 全国銀行協会 一般社団法人 Ring Smile 一般社団法人 生命保険協会 一般社団法人 日本CL建設的な生き方学会 一般社団法人 日本ガス協会 一般社団法人 日本建設業連合会 一般社団法人 日本民営鉄道協会 一般社団法人 不動産協会 伊藤 尚子 伊藤 由希 伊藤忠商事株式会社 稲垣 たまえ 稲田 浩子 稲畑産業株式会社 井上 妙 井上 雅美 井上 陽子 いのちのことば社 茨木 里美 今井 千速 今井 正 井村 律子 入交 敬子 岩倉 良昭 岩越 祥晃 岩崎 淳子 岩崎 全記 岩澤 純花 岩瀬 孝志 岩田 吉郎 岩谷産業株式会社 上島 亮 ウェスプ ベーター 植田 新太郎 上野 佳子 上山 豊善 宇田川 晴義 内田 素美加 内田 裕之 内田 道治 梅田 竜嗣 浦田 美沙子 江崎 美保 榎本 武 江原 貴実子 遠藤 明 大浦 幸子 大江 登美子 大木 綱雄 大久保 一恵 大久保 照子	大久保 俊樹 大熊 毅 大蔵 隆彦 大越 幸司 大澤 加名子 大島 日和 大島 富貴 大島 泰子 太田 為治 太田 浩史 大場 幸夫 大原小児がん基金 大山 きよ美 岡 桂子 岡田 久和 岡田 洋也 岡村 佳典 岡本 幸一 岡本 武 岡本 光代 岡本 芳浩 オガワ シンスケ 沖広 紫帆 沖本 由理 奥 マサ子 奥出 てる子 奥野 達也 奥村 芳美 奥本 純一 尾崎 和代 尾崎 結依子 小澤 未央 押野 昭信 押淵 玲子 小田切 喜一 落合 仁 小野 智久 小野 裕也 おのうえこどもクリニック 音楽館 清水屋 海田 由美子 花王株式会社 加賀美 勝治 香川大学医学部付属病院 垣水 孝一 笠井 功治 笠井 千晴 笠原 秀幸 片山 建二 勝瀬 求 桂川 尚司 勝連 しの 加藤 仁義 加藤 孝 加藤 友和 加藤 廣久 金山 直司 カナリアの会 鐘ヶ江 隆義 金子 武行 兼松株式会社	株式会社 Fortune KK 株式会社 アコーセラミック 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 株式会社 梅原洋紙店 株式会社 草むしり 株式会社 資生堂 株式会社 悠香 株式会社 Agent 株式会社 KANSOH 株式会社 Micia Luxury 株式会社 OKAZAKI 株式会社 エイティエー 株式会社 キャンパスサポート西南 株式会社 グローウィング 株式会社 神戸製鋼所 株式会社 材料屋 株式会社 サンジェルマン 吉村 幸一 株式会社 三平商会 株式会社 サンボウ ホテル ベラヴィータ 株式会社 シオン サンリ薬局 株式会社 シミズ・ビルライフケア S-BLC関西社 株式会社 ソシア 株式会社 大京保険事務所 株式会社 高橋組 株式会社 デンソー 株式会社 ドミ・インターナショナルスクール ドミ 株式会社 なゆた 株式会社 日幸金属工業所 株式会社 日本製鋼所 株式会社 ニヤクコーポレーション 株式会社 ネクスス エンゼルス薬局 株式会社 ビーエフシー 株式会社 日立ハイテクノロジーズ 株式会社 ファンコミュニケーションズ 株式会社 プラスワン 株式会社 フリヂストン 株式会社 メディカルプロジェクト 上 玲子 香山 智恵美 軽部 裕美子 川上 一志 河上 智美 川口 弘二 河田 誠也 川畑 法子 神田 陽子 岸田 恭二 岸野 直樹 岸本 聡子 岸本 富久子 北郷 幸代 北原 義明 キッコーマン株式会社 鬼頭 秀行 木下 健 木下 成顕 きもべつ喜らめきの郷 九州大学病院 京都府南丹保健所 教龍寺 住職 藤本 龍美	協和発酵キリン株式会社 清瀬市ジュニアリーダーズクラブ 楠井 晶 くつきいず音楽院 久保 夕子 久保木 裕子 久保田 一男 熊谷 則一 隈崎 哲也 熊本歯科衛生士専門学校 栗田 剛 クリニクアンジェ牧山内科 栗山 宣夫 クリアゴルフフィールド 黒川 征治 黒木 智 黒坂 敬弘 黒崎 知 げんき保育園 小荒田 登志子 小池 知矢 小池 眞規子 小池 雅子 小坂橋 裕介 公益財団法人 原田積善会 公益財団法人 がんの子どもを守る会を応援する会 神前 尚子 神戸 AD プロ会 興和株式会社 古賀 加代子 白神 洋子 白木 真之 コカ・コーライーストジャパン株式会社 コカ・コーラウエスト株式会社 古賀印刷株式会社 北村 慶子 極楽 亜弓 小久保 真英 小島 直樹 小島 昌子 小玉 恵美 骨髄バンクを支援する山口の会 猶 給美 後藤 雅 小西 由利子 小林 功 小林 清子 小林 仁 小林 宗一 小林 道夫 小松 園実 ザ・ジェント・チャリティ・プロアマ・ナショナル実行委員会 財津 克典 齊藤 茜 齊藤 純子 酒井 あゆみ 酒井 信夫 榊原 悠児 榊原 蘭 坂口 典子 坂田 年 酒徳 浩之 坂本 まゆみ サカモト マサヒロ 鷲山 美智子 櫻井 祐記 第一生命保険株式会社 大阪市本町事業所 笹川 裕幸 笹川 泰弘 佐々木 節子 佐藤 穂恵 佐藤 公則	佐藤 貴虎セミ 佐藤 朝子 佐藤 浩 佐藤 浩樹 佐藤 穂 佐藤 よしお 佐藤 佳子 佐用 敏彦 澤田 敦子 椎名 延年 塩井 かやの 塩見 志満子 四国フィルハーモニー管弦楽団 七野 浩之 実践女子学園 昭和57年度高3組卒有志一同 室内 由香 篠井 智恵子 篠田 章 篠原 慶子 篠原 佳子 柴田 和子 渋谷 美恵子 島田 健司 清水 信 清水 康子「ひとつ」の会 清水建設株式会社 下村 隆夫 小児がんの未来を考える会「みらいっぽ」 白井松新業株式会社 白神 洋子 白木 真之 神菌 守 新日鐵住金株式会社 菅原 二恵 杉浦 訓子 杉本 洋一 杉山 はま子 鈴木 亜津子 鈴木 彩 鈴木 京子 鈴木 貴子 鈴木 千穂 鈴木 久夫 鈴木 美文 須々木 由美子 鈴木 淑恵 須藤 壯太郎 住友商事株式会社 諏訪二葉高校同窓会 東京支部 西部 雅 聖路加国際病院ボランティアグループ 関 郁 関 多津子 関 真幸 関沢 敏美 全栄企画株式会社 セントバルトリクスファウンデーション 双日株式会社 曾我 高臣 園 奈澄 園部 かおる 損保ジャパン日本興亜ちきゅう倶楽部 第一生命株式会社 藤枝営業オフィス 第一生命保険株式会社 FPコンサルティング部 第一生命保険株式会社 大阪市本町事業所 だいきくを救う会 だいき動物病院 大同特殊鋼株式会社 大理石村・ロックハート城 大和証券株式会社 森田 晴之	多賀 哲男 高木 えり絵 高瀬 一博 高田 尊信 高橋 晶子 高橋 和子 高橋 圭人 高橋 繁雄 高橋 光明 高原 康一 高松 英夫 高宮 静男 宝田 知子 宝田 ユカリ 瀧 さおり 武石 香 竹島 博一 竹村 統成 武山 ゆかり 田島 宗太 田尻 健 田添 俊昭 田中 徹 田中 雄 谷村 秀樹 田旗 孝夫 玉井 宏明 玉川 京子 田村 加奈子 垂井 浩 丹後 まみこ 地域生活支援株式会社 中外製薬株式会社 中外製薬労働組合 ぼけっと基金 張 光陽 蝶名林 正三 蝶理株式会社 築地7丁目町会婦人部 辻 尚人 鈴木 晋作 辻林 温子 辻本 延也 津田 貴子 津田 留美 綱本 雅美 坪井 真一 坪倉 博史 妻島 毅史 デイサービスセンターあすなろう 出口 和子 土肥 孝治 東京海上日動あんしん生命保険株式会社 東芝メディカルシステムズ株式会社 東北大学病院 地域医療連携センター 東洋英和女学院 小学部母の会 土岐 恵二 時津 力也 時政 定雄 常盤 由美子 徳重 百合江 土手 多喜子 殿畑 正生 トビー工業株式会社 富田 基生 富山福祉短期大学 豊田 和子 豊田 純子 豊田通商株式会社 都立富士高校合唱部 OB・OG 有志 ナイス株式会社	内藤 龍平 中尾 憲治 中尾 モニカ 中澤 弘美 中島 功博 中島 久子 長瀬 洋子 長瀬産業株式会社 中田 誠一郎 中田 政和 中野 達也 中野 千栄 中野 洋子 中鉢 鈴子 中村 和彦 中村 良樹 中村 美子 仲本 千佳子 中山 由美 成岡 千絵 成澤 ともえ 成田 幸子 名和 久子 南部 昌弘 ニエゼキ マサシ 新村 昌弘 西尾 隆 西岡 裕美 ニシジマ チカ 西谷 卓也 西村 清美 仁田原 浩明 日新製鋼株式会社 日鉄住金物産株式会社 日本医科大学千葉北総病院 日本製紙連合会 日本生命保険相互会社 香岐営業部 日本生命保険相互会社 学研都市営業部 日本生命保険相互会社 鎌ヶ谷営業部 日本生命保険相互会社 黒崎営業部 日本生命保険相互会社 京阪営業部 日本生命保険相互会社 渋谷支社 日本生命保険相互会社 大和営業部 日本生命保険相互会社 首都圏営業本部 法人市場部 日本生命保険相互会社 新飯塚営業部 日本生命保険相互会社 新横浜支社 日本生命保険相互会社 大宰府営業部 日本生命保険相互会社 永田 寿美子 日本生命保険相互会社 西新営業部 日本生命保険相互会社 阪神支社甲子園営業部 日本生命保険相互会社 福岡総合支社 日本生命保険相互会社 福岡総合支社 筑紫営業部 日本生命保険相互会社 福岡総合支社 福岡城南営業部 日本生命保険相互会社 福岡総合支社 福岡西部営業部 日本生命保険相互会社 福岡総合支社 天神営業部 日本生命保険相互会社 法人市場部 日本生命保険相互会社 南福岡シティ営業部 日本生命保険相互会社 横浜中央営業部 永沼 美幸 日本生命保険相互会社 横浜北支社 瀬谷営業部 日本生命労働組合 渋谷支部 日本生命労働組合 横浜北支社 日本チャールス・リバー株式会社 日本労働組合総連合会 ニューマン 孝子 認定NPO法人 ゴールドリボン・ネットワーク 認定NPO法人 ファミリーハウス 沼田 則子 野上 麻紀 野口 智子
--	--	--	--	--	--	--	---



募金者一覧

※敬称略

野崎 孝子 野島 尚恵 ノバルティス ファーマ株式会社 延田 尚史 野村 信幸 ハーブガーデンカフェ 萩 広樹 萩澤 進 橋口 正子 橋本 里実 馬上 星一 長谷川 純子 長谷川 伸布子 長谷川 友健 長谷川 雅一 服部 亜津子 パナソニック株式会社 濱田 諭奈 濱田 奈穂 早川 晶 林 佳奈子 林 修治 林 志郎 林 富 林 雅彦 早田 千鶴子 速水 節子 針生 清高 半澤 道子 阪本 哲男 阪和興業株式会社 東山内科・小児科 樋口 隆純 左路 薫 火ノ川 好信 平井 佳代子 平井 俊子 平井 博夫 平澤 和美 ファミリーダ・ラーマン 深澤 重幸 深澤 亮子 吹田 健吾 福岡聖書キリスト教会 福島 桃子 福田 博 福田 佳子 福地 誠一郎 福原 卓也 福吉 幸子 富国生命保険相互会社 福井支社 福井外野倶楽部 藤井 邦臣	藤井 雄真 藤川 京子 藤崎 ノブ子 藤澤 義之 藤田 昶子 藤田 美子 富士電機株式会社 藤原建装株式会社 藤平 一雄 藤本 たか子 藤山 優子 二井 立恵 フナクボ ユキコ フリースクールオンリーワン プリチストンちよぼら募金 ブルデンシャル生命保険株式会社 富山支社 古本 恵子 プレツェルジャパン株式会社 普連土学園 宗教委員会 ヘルテック トレーディング株式会社 放生 祐樹 蓬台 浩明 朴木 寛弥 細井 廣一 細田 裕美 ほのぼのサロン 堀川 哲男 堀口 悦子 毎日新聞東京社会事業団 前川 恒策 前田 晃代 前田 美穂 眞尾 貴年 牧 香奈子 榎 富貴子 増田 勝治 町田 淳 松井 秀文 松木 美鈴 松阪 直美 松田 信夫 松谷 雅生 松永 憲一郎 松永 好 松野 亘芳 松原 善明 松村 友加理 松本 敬子 松本 耕一 松本 翔太 丸紅株式会社 三浦 厚子	三浦 恵美子 三浦 貞夫 三浦 玲奈 三川 勝夫 三島 幸千代 水柿 多香子 水木 しのぶ 三井造船株式会社 三井物産株式会社 三菱商事株式会社 三菱電機株式会社 三原 淳吉 宮城 智央 三宅 隆則 宮澤 敦子 宮田 和由 宮田 淳子 宮田 雅子 宮の台幼稚園バザー委員会 牟田 謙一 村上 智是 村越 雅雄 村越 美香 村土 陽一 村松 毅 村本 ほづみ 明治安田生命保険相互会社 営業人事部 目黒 正彦 目澤 裕子 木曜会 茂木 恭子 元田 雅弘 森 浅子 森下 さふみ 森下 宣子 もりの木こどもクリニック 森谷 光来 森山 利子 守山 理衣 守山内科・小児科 安 大輔 安島 竜也 安本 景子 柳 隆昭 柳 柳有会社 山内 嘉彦 山雄 美智代 山岡 祐輝 山上 正喜 八巻 恭治 山口 利子 山崎 文之	山路 依俊 山下 公輔 山下 美香 やましる小児科 山城武夫 山田 勝三 山田 勝巳 山田 敏弘 山田 竜輔 山室 達夫 山本 暁彦 山本 勝利 山本 公司 山本 信江 山脇 志保子 有限会社 築地にしん太助 有限会社 松田興業 有限会社 吉半 有限会社 大瀬設備事務所 有限会社 キャピタル 有限会社 クリエ 有限会社 三響会企画 有限会社 ミートステーション 有限会社 山川土地建物 有限会社 ライフクロカワ 有限責任事業組合 チャイルドケア研究所 ゆうた 向井 良治 ゆめちゃんを救う会 用品 ひとみ 横浜冷凍株式会社 横霧 航平 吉岡 佑樹 吉川 隆 吉崎 利徳 よしだ こういち 吉田 茂 与志福 吉村 裕美 吉本 ヤスタカ 吉本 泰隆 米倉 邦子 米原 チドリ 米山 望 ライフテクノロジージャパン株式会社 ラッセル・インベストメント株式会社 李 オル ローソン浜寺石津西4丁店 ローソン製菓株式会社 かるがも基金 若杉 和枝 ワタキューセイモア株式会社
---	--	--	--

AIG 富士生命保険株式会社 NPO法人 M.A・ART BALLET COMPANY Shop ART Umi のいえ アフラック サイクル&スポーツガーデン 医療法人三幸会 小澤診療所 内田 歩 大原薬品工業株式会社 従業員一同 おぼんざい処 嘉づき 金澤 ともか 株式会社 Fortune KK 株式会社 エイト 西萩勝手口ひまり屋 株式会社 プレミアバンク 株式会社 ホテルサンパレー	株式会社 ルージュ 関西学院 高等部 吹奏楽部 吉祥寺 ひまり屋 キャピタル・パートナーズ証券株式会社 神戸フィルハーモニック 小林 花卉 小林 芙蓉後援会 佐藤 貴虎ゼミ 和宗総本山四天王寺 清水 康子 ゼッシュエット 聖路加小児医療センター 聖路加メサイア ソフトバンク株式会社	ソフトバンクモバイル株式会社 第8回 酒は未来を救う会 第一生命保険株式会社 調布市 福祉健康部健康推進課 伝統芸能の今 2015 東京海上日動あんしん生命保険株式会社 特定非営利活動法人 はばたく夢ロボット 富山短期大学 学生一同 中田中央歯科医院 日蓮宗 妙像寺 日本生命保険相互会社 日本生命ライフプラザ越谷 日本労働組合総連合会 久光 重貴	北京 高棚店 道の駅 風穴の里 明治安田生命保険相互会社 営業人事部 明治安田生命保険相互会社 中津営業所 明治安田生命保険相互会社 町田支社 明治安田生命保険相互会社 労働組合大分支部 明治安田生命保険相互会社 労働組合丸の内支部 もりまち幼稚園 保護者会 ヤフー株式会社 有限会社 築地にしん太助 有限会社 酒ハウス ヤマヤ レスリーチャンバースデー募金 ローソン浜寺石津西4丁店
---	--	---	--

他、多くの方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

※当会では寄付金について以下の通り取り扱っております。

- ・寄付：特定の個人や法人から集まった募金
- ・募金：不特定多数の方からの支援金（募金箱やイベント会場など）

上記の他、アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、キッズサポートを通じてペアレンツハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（7,055件）をいただきました。

匿名ご希望の方からも多数ご寄付をいただいております。

公益財団法人がんの子どもを守る会2015年度事業報告書

2015年4月1日～2016年3月31日

2016年6月7日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL03-5825-6311(代表)